

熊本地震・被災地の声から生まれた地震対応箱「マンション地震対応箱 MEAS」
「グッドデザイン・ベスト 100」
「グッドフォーカス賞〈防災・復興デザイン〉」受賞
～大規模震災時、マンションはどう対応したらいいの？多くのマンションの道標に～

 GOOD DESIGN AWARD 2023
グッドフォーカス賞 [防災・復興デザイン]



マンション地震対応支援協会の「マンション地震対応箱 MEAS」の活動が評価され、公益財団法人日本デザイン振興会主催の2023年度グッドデザイン賞において、「グッドデザイン・ベスト100」ならびに「グッドフォーカス賞 [防災・復興デザイン] (日本デザイン振興会会長賞)」を受賞しました。

被災地の声から生まれた地震対応のノウハウを誰もが使えるように

関東大震災から100年の今年、いつ大規模震災が起きてもおかしくないと言われています。

多くの人は大規模震災を経験したことがなく、そのため被災したら、まずどうしたら良いか分からなくなります。そこで、被災時の道標として、熊本地震で管理組合や住民が行った対応手順を「マンション地震対応箱 MEAS」にまとめました。被災時に何をすればいいのかが書かれたシートの指示に従って住民が動くことで、震災時の対応ができるようになります。また指示はその時の心理に配慮した色使いを使用、被災したユーザーにデザイン面からのアプローチも配慮しました。

被災地のリアルな経験をもとに生まれた「マンション地震対応箱 MEAS」を、日本の多くのマンションに活かしていただけたらと願っています。

受賞評価コメント及び詳細は、次頁以降をご参照ください。

【報道関係者様からのお問合せ先】

マンション地震対応支援協会
〒104-0042 東京都中央区入船三丁目1番5号 (株式会社イオタ内)
TEL 03-6262-8588 広報担当 堀 (090-6630-8410)
info@meas-bousai.net HP: <https://meas-bousai.net/>

<グッドデザイン・ベスト100 評価コメント>

いつ、どこで大規模地震が発生してもおかしくない状況にある日本において、発災時に、マンション住民にとって「いつものように」対応できるような備えがあることは、もはやマンションそのものの価値として捉えられる時代が訪れているように思う。そのデザインは、とにかく文字は少なく端的にメッセージを伝えることに徹していて、色彩も発災以降の住民の心理状態に合わせて選定されており、高齢化が進む日本社会においても、全ての人々がスムーズに対応できるクオリティを獲得している。今後もさらなるアップデートを重ねて、いずれ全国共通のルールとなり、どこに引っ越しても「いつものように」対応できる仕組みとなることが望まれる。



■いつ起きてもおかしくないといわれる大規模震災

まだ対応が十分に備えられていない多くのマンションに、地震対応箱を届けたい。

阪神淡路大震災・東日本大震災から熊本地震まで、マンション復旧の取り組みにはこれまでの被災経験が生かされることが少なく、「取り組んだことを形にすればもっとみんなが助かるはず」との思いがありました。そこで、熊本地震でのマンション管理組合の被災経験の知恵を体系的・時系列にまとめ「誰もが被災時に動ける指示書」としてマンション地震対応箱 MEAS を開発しました。

未被災地のマンション住民の多くは、大規模地震で被災したら、「マンションや自宅がどのような被害を受けるのか」「マンションでどのような対応が必要になるか」を知る機会がほとんどありません。被災時の対応が取れていない住民にとって、被災時に対応できるためには「被災時の道標」となる救急箱が必要です。



被災したマンションの様子



被災したマンションで住民が対応する様子



対応がわからず相談会に管理組合が集まる



復旧工事の指導を行う様子

■震災時の対応がこの一箱に

マンションを対象にした、“被災～復旧までの対応を支援する”防災ツールはこれまでありませんでした。2019年に開発された「マンション地震対応箱 MEAS」はリニューアルを重ね、「被災時の道標」（マンション防災の救急箱）として、マンション住民が取るべき対応を順序立て、ツールとしてデザインすることで、さらに使いやすくしました。

マニュアルではなく人が行動しやすい「指示書（アクションシート）」である事が特徴です。被災状況を把握する「構造被害状況調査」、震災復旧の流れを知る「震災復旧の全体マニュアル」、建物の復旧に役立つ「復旧工事」方法・費用マニュアルは冊子で、マンション住民への情報「掲示物」はシートで、災害対策本部に張り出す「震災後の管理組合の活動モデル」はポスターで用意しました。



被災時に何をすればいいのかわからない、シートの指示に従って住民が対応できるようになっています。

■震災対応ノウハウの学習と被災時の正しい復旧工事ができるネットワークづくりへ

被災地とつないだ「震災対応セミナー」や「被災時支援サービス」を提供しています。管理組合や住民が参加することで、マンション防災力の向上が期待されています。

また、被災時にマンションの復旧工事が大きな問題になったため、マンション計画修繕施工協会（東京都港区）と提携し正しい修復工事ができる工事業者を育成する「研修プログラム」の開発、管理組合が復旧時の工事業者をマッチングできる「震災時ネットワーク」の設置へ向け、マンション防災を支援する準備を進めています。



被災地の経験をもとに、管理組合向けに、マンション地震対応箱の防災セミナーを実施



マンション計画修繕施工協会と提携、被災したマンションの修復工事ができる研修を開発

■マンション地震対応支援協会の取り組みについて

今回リニューアルした地震対応箱 MEAS は、年内に予約受付を開始し、2024 年 1 月より販売を開始する予定です。これまでのネット販売から、購入者には「地震対応箱活用セミナー」「マンション防災のコミュニティ」等のサービスの提供をはじめます。

また大規模震災時にマンションの復旧工事を適切に実施できる正しい知識と技術を持った施工業者が必要になることから、マンション計画修繕施工協会と連携して復旧工事のできる人材育成を進めるため、2024 年春に「RC 造震災復旧施工者教育」を開始する予定です。今後、マンション管理組合が被災時に復旧工事事業者が探しやすくなる「復旧時支援ネットワーク」の取り組みを進めます。

■活動実績

2019 年に発売以来、700 を超えるマンションに導入されました。現在、東京都「東京防災学習セミナー」のテキスト、中央区のマンション防災の冊子、世田谷区・台東区・町田市の防災セミナーで紹介されました。防災活動にはハードに加えソフト面も必要と考え、熊本地震でマンション管理組合が対応した体験を「防災学習プログラム」として発信しています。更に、希望するマンション管理組合には、被災地熊本と協働し本ツールを活用した「防災支援プログラム」を作成、「震災時初動対応訓練」や「住民向け説明会」の実施を支援し、住民の防災意識向上に寄与しています。

■協会の概要

団体名 マンション地震対応支援協会

設立 2021 年 9 月 1 日

代表 堀邦夫

所在地 〒104-0042 東京都中央区入船三丁目 1 番 5 号（株式会社イオタ内）

事業内容 マンション地震対応箱 MEAS の普及促進事業

MEAS 製品開発、販売・教育・啓発活動、その他普及に関する活動

団体員数 7 名